令和 6 年 4 月

15 日

就労継続支援A型事業所におけるスコア表(全体)

事業所名	朗真堂
住 所	さいたま市北区大成町4-35-4
電話番号	048-782-9003

(I) 労働時間		
①1日の平均労働時間が7時間以上		
②1日の平均労働時間が6時間以上7時間未満		
③1日の平均労働時間が5時間以上6時間未満		
④1日の平均労働時間が4時間30分以上5時間未満		40
⑤1日の平均労働時間が4時間以上4時間30分未満	0	
⑥1日の平均労働時間が3時間以上4時間未満		
⑦1日の平均労働時間が2時間以上3時間未満		
⑧1日の平均労働時間が2時間未満		点

①90点 ②80点 ③65点 ④55 点 ⑤40点 ⑥30点 ⑦20点 ⑧5点

(Ⅱ)生産活動		
①過去3年の生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支 払う賃金の総額以上	0	
②過去3年の生産活動収支のうち前年度及び前々年度の各年度 における生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う 賃金の総額以上		
③過去3年の生産活動収支のうち前年度における生産活動収支 のみが前年度に利用者に支払う賃金の総額以上		60
④過去3年の生産活動収支のうち前々年度における生産活動収 支のみが前々年度に利用者に支払う賃金の総額以上		
⑤過去3年の生産活動収支のうち前年度及び前々年度の各年度 における生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う 賃金の総額未満		
⑥過去3年の生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う賃金の総額未満		点

①60点 ②50点 ③40点 ④20点 ⑤-10点 ⑥-20点

(Ⅲ)多様な働き方(※)		
①免許・資格取得、検定の受検勧奨に関する制度		
就業規則等で定めている	0	
②利用者を職員として登用する制度	•	
就業規則等で定めている	0	
③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律		
就業規則等で定めている	0	
④フレックスタイム制に係る労働条件		
就業規則等で定めている		15
⑤短時間勤務に係る労働条件	•	15
就業規則等で定めている		
⑥時差出勤制度に係る労働条件		
就業規則等で定めている		
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度	•	
就業規則等で定めている	0	
⑧傷病休暇等の取得に関する事項		
就業規則等で定めている	0	
小計 (注1)	5	.

事業所番号	1116505577
管理者名	鈴木 秀一
対象年度	令和5年度

(Ⅳ) 支援力向上(※)		
①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会		
参加した職員が1人以上参加している	0	
②研修、学会等又は学会誌等において発表		
1 回以上の場合	0	
③視察・実習の実施又は受け入れ		
いずれか一方のみの取組を行っている	0	
④販路拡大の商談会等への参加		
1 回以上の場合	0	
⑤職員の人事評価制度	,	
人事評価結果に基づき定期に昇給を判定する 制度を設け、全ての職員に周知している	0	15
⑥ピアサポーターの配置		
ピアサポーターを職員として配置している		
<u>⑦第三者評価</u>	,	
過去3年以内の福祉サービス第三者評価を 受審しており、結果を公表している。		
⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等	,	
都道府県知事が適当と認める国際標準化規格が定めた 規格その他これに準ずるものの認証を受けている		
小計 (注2)	5	点
	Ū	

(本) 0項目の目前点に応じた点数	(注2) 3以上:13点、4~3.3点、2点	は以下. 05	π.
(V)地域連携活動		
地域の事業者と連携した付加価値 の生産活動等地域社会と連携した ネット等により公表している	D高い商品開発、企業や官公庁等で 舌動を行い、その結果をインター	0	10 点

1事例以上ある場合:10点

(VI)経営改善計画		
経営改善計画の提出を求められていない。または、経営改善計画の提 出を求められているが、指定された期日までに提出している。	0	0 点

期限内に提出していない場合:-50点

(VI)利用者の知識・能力向上		
の向上に向けた支援を行い、	爰A型事業所等が利用者の知識及び能力 当該支援の具体的な内容を記載した報告 D利用その他の方法により公表してい	0	10 点

1事例以上ある場合:10点

	11/	計(注1)			5	点		
(※) 8項目の合計点	に応じた点数		(注1) 5以上:	15点、4~3:	5点、2点」	以下:0点		
項目	点数							
労働時間	5点	20点	30点	40点	55点	65点	80点	90点
生産活動	-20点	-10点	20点	40点	50点	60点		
多様な働き方	0点	5点	15点					
支援力向上	0点	5点	15点					
地域連携活動	0点	10点						
経営改善計画	0点	-50点						
利用者の知識・ 能力向上	0点	10点						

合計			
150	ل	/200点	
	点	/ 200点	
			Τ

就労継続支援A型事業所におけるスコア表(実績 I ~Ⅳ、Ⅵ)

(I)労働時間							
前年度(年度)						_	
雇用契約を締結していた全ての利 用者における延べ労働時間 14,522		雇用契約を締結していた延べ 利用者数	3, 490	人	利用者の1日の平 均労働時間数	4. 16	時間
		(Ⅱ)生産活	動				
会計期間 (月~月) 前々々年度 (年度)							
生産活動収入から経費 を除いた額 18,723,309		利用者に支払った賃金総額	17, 343, 916	円	収支	1, 379, 393	円
前々年度 (年度) 生産活動収入から経費 21, 287, 210		利用者に支払った賃金総額	15, 994, 877	円	収支	5, 292, 333	円
前年度 (年度) 生産活動収入から経費 を除いた額 17,613,000		利用者に支払った賃金総額	14, 829, 630		収支	2, 783, 370	
		(皿)多様な側	き方		,		
前年度 (年度) における取組 (全体表「 (皿) 多様な働き	また」の各項E			記載)			
					地球にはフルビ	A III TI + COD TO +10 Ab.	
① 免許・資格取得、検定の受検勧奨に関する制度 ◎免許・資格取得、検定の受検勧奨		皆を職員として登用する 音を職員として登用する			勤務に係る労働 務に係る労働条	条件及び服務規律 件及び服務規律	
に関する制度を定めている	定めてい		<u>√</u>		る制度を定めて		V
④フレックスタイム制に係る労働条件	多 每時間	『勤務に係る労働条件		· (6)時業	出勤制度に係る	兴剧条 处	
○フレックスタイム制に係る労働条件を		リ動物に保るカ幽条件を 引勤務に係る労働条件を			出勤制度に係る		
定めている	定めてし	าอ		定めて	いる		
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度 ◎有給休暇の時間単位取得または、計画的付与制度 を定めている ☑		木暇等の取得に関する 事 木暇等の取得に関する事 \る					
	<u> </u>						
		(Ⅳ) 支援力	向上				
前年度 (年度) における取組 (全体表「(W) 支援力向」 ①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会 ②研修計画を策定している ②外部研修、もしくは内部研修を 1回以上実施している。 ② ※研修名 (内部)支援力向上研修 研修講師 鈴木秀一、木下弘江	⑩研修計画を策定している ② ⑩外部研修、もしくは内部研修を 1回以上発表している 1回以上実施している。 ※研修、学会等名: 障害者のキャリア研究会実施日本の表別では、他の事業所の視察・実習を受け入れている。 実施日 9月24日 ※研修名 (内部)支援力向上研修						
実施日・受講者数 10月 28日 13人	掲載日					月 日	
②販路拡大の商談会等への参加 ⑤職員の人事評価制度 ⑥ピアサポーターの配置 ②販路拡大の商談会や展示会等へ1回以上 参加している。 ○職員の人事評価制度を整備している ⑥当該人事評価制度を周知している ○ピアサポーターを配置している ⑥当該ピアサポーターは「障害者ピアサボ →研修」 ※商談会等名 JCOM(対象り2023 主催者名 JCOM 人事評価制度の制定日 2018 年 3月 31日 人事評価制度の対象職員数 12名 うち昇給・昇格を行った者 4名 日時 11月 19日 内容 展示会への出店 「シラ幹給・昇格を行った者 4名 当該人事評価制度の周知方法 は業時間 の表別である。 本の 展示会への出店 「本記述書記書」 「本記述書記書」 「本記述書記書」 本の 別報方法 「本記述書記書」 「本記述書記書」 本の 別報方法 「本記述書記書」 「本記述書記書」 本の 別報方を 「本記述書記書」 本の 別報方を 「本記述書記書」 本の 別報方を 「本記述書記書」 本の 別報方を 「本記述書記書」 本の 別報 方式 「本記述書記書」 本の 別報 方式 「本記述書記書」 本の 別報 の 別報 方式 「本記述書記書」 本の 別報 の 別報 の 別報 方式 「本記述書記書」 本の 別報 の 別報							
⑦第三者評価 ⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等 ◎前年度末日から過去3年以内に 福祉サービス第三者評価を受けている □ ISOが制定したマネジメント 規格等の認証等を受けている ※評価を受けた日 月 第三者評価機関 規格等の内容							
		(VI) 経営改	善計画				
◎指定権者である都道府県(指定都市・中核市)へ、経営改善計画書へ提出した。※受理日 年 月 日							

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	事業所名 朗真堂	
住 所	さいたま市北区大成町4-35-4	
電話番号	048-782-9003	

事業所番号	1116505577
管理者名	鈴木 秀一
対象年度	令和5年度

地域連携活動の概要

<活動内容>

活動場所 : さいたま市北区日進町1-763 遠山倉庫

実施日程 : 平日、土曜日(カレンダーによる)

利用者数 : 7名 開始時期 : 2019/1~

実施した生産活動・施設外就労の概要:

建設現場で使用する養生マットのリサイクルセンターの運営(養生

マットのメンテナンスと納品回収)

<目的>

一般企業が運営する業務に直接携わることで、施設内での訓練よりも 実践的な経験を積むことができ、今後の就労における課題や目指すス タイルを本人が理解できます。実践の機会を提供することで、賃金向 上にも貢献できます。一般企業の業務に参加することで、より実践的 な就労訓練を受けられ、業務スキルが向上すると同時に、就労スキル も高まります。

〈成果〉

結果:一般企業の代理店と同じ役割をすることで、

売上UPにつながった。

成果:利用者全員の体力の向上、仕事への姿勢、責任、現場監督

からの指示・報告など、すべて一般企業に近いレベルまで

向上している。

課題点:倉庫勤務のため、休憩所が小さい。真夏の暑すぎる

日の体調管理。

<活動の様子>

YSKサポートの養生マットはすべてリサイクル生産。

Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、

Recycle(リサイクル)の3RシステムによるSDGsに対応する循環型社会に貢献しています。

- ・養生マット建築現場へ納品と回収
- ・回収物のメンテナンス(洗浄→乾燥→検品→梱包)
- ・破材養生マットの再生







マット洗浄の状況①

マット洗浄の状況②

洗浄の乾燥状況







洗浄後のマットの状態



現場の納品状況

連携先の企業等の意見または評価

当社の成果物は卓越した品質を誇り、他の同業者との比較においても一切の遜色がありません。お客様の現場からも高い評価をいただいており、その信頼を確固たるものとしています。また、現場の都合に応じて柔軟に対応し、急な作業依頼にも迅速かつ的確に対処しています。このような迅速な対応は、お客様のニーズに適切に応えることができるため、非常に助かっています。

さらに、他地域の福祉施設が新たにスタートする際には、見学や研修を通じてサポートを提供することで、業界全体の発展に 貢献しています。この支援は、当社の社会的責任の一環として位置付けられ、当社にとって不可欠な役割を果たしています。 他地域の施設が良いスタートを切れるように手助けすることは、地域社会全体の発展にも繋がる重要な取り組みです。

今後も、地域社会との連携を更に強化し、建築現場における支援活動に積極的に貢献していきたいと考えています。そのため にも、関係各所との協力をさらに深め、地域の発展に向けて力を合わせていきたいと願っています。

連携先企業名	有限会社YSKサポート	担当者名	三輪

就労継続支援A型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	朗真堂	
住 所	さいたま市北区大成町4-35-4	
電話番号	048-782-9003	

事業	所番号	1116505577	
管理	理者名	鈴木 秀一	
対	象年度	令和5年度	

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<活動内容>

利用者の知識及び能力向上に向けた取り組み 個別支援計画や本人が個人的に取り組んでいる活動に 対して、現状の進捗を振り返り、今後の活動の悩みや 気になっていることを整理して、自分で次の行動を軌 道修正含めて判断力を培う。(毎月実施)

<目的>

本人が自己評価を行い、継続・改善に取り組んでいく。発生する課題や悩み、迷いを整理する機会。それを通じて、自己成長を伴いうと共に、スタッフとの信頼関係を構築する。

<成果>

- ・毎月実施することで、本人が自己評価を行える
- ・支援の場が目的ではないことで、支援が行える
- ・利用者と支援員の関係性が高まる

<活動の様子>

利用者と支援員が1対1で、毎月実施する。支援員は ローテーションで担当するので、毎回入れ替わる。これによって、利用者は自分主体で課題の確認と実施状況を整理して伝えることが求められる。





連携先の企業や事業所等の意見または評価

通常は「利用者と支援員」の関係のため、お互いの立場での関係が強い。しかし、日中の生産活動を一緒に行っていると、同僚としての関係が出てくる。支援員が何かを伝えようとすると、話を聴いている時に、理解しようとすることと、支援のために伝えようとする準備が必要になる。しかし、この活動は完全に聞き手に徹することを利用者にも伝えてあり、利用者自身が自分のことを相手に分かるように伝えるために、利用者に多少の負担はあるが、対応する支援員に対しては一切不満が起きないのが、大きい。

連携先企業(担当者) 鈴木秀一

利用者からの意見・評価

最初は短い時間で淡々とこなせるのが良いと感じていたが、毎回振り返るのが意外と大変だと思っていました。しかし、回を 重ねていくと、モニタリングだと期間が空いて内容を忘れてしまいがちでした。しかし、毎月実施してくれると都度確認が取 れ、自分の課題や活動を振り返えられるので、より具体的に進んでいく実感があります。